

2021－2022年度会長方針

2020年12月15日

京都東山ロータリークラブ

会長エレクト布施 栄一

会長テーマ「ロータリーらしくを あたらしく」

コロナ禍で、大変な時に会長を仰せつかりましたが、次年度への準備だけは、しっかりとしておきたいと思います。

約27年前の会員数は、111名で、創立以来最高の会員数です。そして、今現在63名です。一番多かった時に比べると、約半数に近い45%にあたる会員数が減少していることとなります。諸事情で退会されたということもありますが、やはり新しく入会される会員が少ないということが一番大きな理由ではないでしょうか。

では、どうしたら新入会員を増やせるのかを考えてみますと、これはいつも会員増強ではテーマとなっていたように、「ぜひ、京都東山ロータリークラブに入りたい」と思ってもらえるような活気あるクラブにすることに尽きるのではないのでしょうか。

先日の「会員増強アンケート」においては、ほとんどの会員の方が京都東山を好きであると回答されておられました。その理由としては、いろいろな職業の方々との出会い、気さくな仲間、親近感、友情を感じるなどのご意見がありました。

コロナ禍で会員増強が難しい今、将来の会員増強に備えるためにも、今ここでクラブとしての基盤をしっかりとしたものにするのが重要な課題であると考えます。会員の方々が好きだといわれる京都東山ロータリークラブの温かな雰囲気を活かしかしながら、活気あるクラブに、そして魅力あるオーラを出せるクラブにするために、ロータリーらしさとは何かをもう一度考えてみる必要があると思います。

「ロータリーらしくとは何か。」と問いかけると、ロータリアンの方々からは必ず「4つのテストである。」という答えがまず返ってきます。4つのテストとはロータリーソングにあるように、

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？

この歌は、英語で作られたものを日本語に訳したものです。

もともとの英語には、歌の前にこういう文言が入っています。

「of the things we think, say or do:」「言行はこれに照らしてから」というものです。

この言葉は、私たちが関わるものに対して、言ったり、行動したりする場合には、常にこの4つのテストと照らし合わせて考えてみるという意味であると私は理解しています。

ひとりひとりがこの「4つのテスト」の意識を高めること、また日々実践することにより、クラブとしてさらに強い繋がりが構築できるのではないかと思います。そして、その結束力で事業に取り組んでい

くことこそが魅力を広く発信していけることになるものと確信しています。

そのような思いから、今年度の会長テーマは「ロータリーらしくを あたらしく」とさせていただきます。ロータリーの魅力が薄れてきているいまだからこそ、「ロータリーらしくとは何か」ということを考え、クラブの土台をしっかりと補強しなおす時期が来たのだと思います。

ロータリーの創始者、ポール・ハリスも、
「世界は常に変化している。ロータリーは、この世界と共に変化して成長していかねばならない。ロータリーの物語は、幾度も書きかえられねばならない。」とっています。
「ロータリーらしく・・・4つのテストを常に言行に照らすこと、あたらしく・・・時代の流れに合わせてロータリーの物語を書きかえていくこと」、「ロータリーらしくを あたらしく」というテーマで、次年度は取り組んでいきたいと考えています。

具体的な取り組みとしては、まだ未定のものがありますが、

1. 例会は年 42 回実施すること。
2. 本来のクラブデーの意義を鑑みてクラブデーを充実させ、クラブとしてのまとまりをいちだんと強固なものにすること。
3. 事業に関しては、

(社会奉仕事業)

「未来へとつなぐ水の路」の継続で、東山用水と谷川用水の教材を作成し、鏡山小学校・百々小学校・陵ヶ岡小学校の3校で出前授業を行うこと。

そして今年度の事業として、「疏水の子 (sosui tanken school)」の実施。

これは次々年度に疏水事業とタイアップするための導入としての位置づけで、出前授業をした3校の4年生全員(約230名)を疏水の通船に教育乗船させるという計画です。各校との調整はまだできていませんが、教育乗船については、上下水道局から次年度と次々年度の2年間についての許可をいただきました。

(国際奉仕事業)

グローバル補助金事業で、フィリピンケソン市、メトロサンフランシスコデルモンテRCとのデング熱撲滅作戦の事業の継続。

(青少年奉仕事業)

院内学級の継続

決定している事業については以上です。

コロナ禍で事業の計画にかなり影響を受ける委員会もありますが、このようなときだからこそ、「4つのテスト」を常に心に問いかけながら、できることをしっかりと確実に、クラブで一丸となって取り組んでいきたいと考えています。